

平成 26 年度研究助成実践事例発表大会 研究発表内容の紹介

メイン会場

①14:00~14:30

日本の未来を切り拓く学校教育のあり方と提言
—社会的自立の基盤を育成する高等学校教育の実践—

○北川 真一郎(兵庫県立教育研修所)
○松野 哲也(兵庫県立武庫荘総合高等学校)
齋藤 信介(兵庫県立伊丹高等学校)
橋本 浩(三田学園中学高等学校)
網本 勝喜(武庫川女子大学附属中学校高等学校)
大前 俊一(育英高等学校)
寺口 浩(神戸女学院大学中学部高等学校部)
千家 弘行(兵庫県立教育委員会事務局高校教育課)
近藤 直樹(兵庫県立教育研修所)

私たちの研究グループでは、昨年、県内の公立・私立の高校2年生 1,500 名を対象に「高校生の自立に関する意識調査」を実施しました。その結果分析を踏まえて、本研究では、シティズンシップ教育の取り組みを参照しながら、高校生に培う「社会的自立の基盤」を定義するとともに、具体的な教育実践の進め方について、学習（授業・家庭学習）、特別活動、部活動、社会とのつながりの観点から提言を行います。

②14:30~15:00

私立学校におけるインクルーシブな特別支援教育のシステム開発に関する実証的研究
—公私格差の解消をめざして—

田部 絢子(大阪体育大学健康福祉学部)

本研究は、就学前教育から高校卒業までの切れ目のない一貫した特別支援教育システム開発の基礎研究として、幼稚園・小学校・中学校・高校の複数学校種を経営する学校法人に在籍する発達障害等の特別な配慮を要する幼児児童生徒の教育現状、特別支援教育の体制整備状況、進路・移行支援の実態等を、調査を通して総合的に検討し、国公立学校に共通して求められている特別支援教育のシステム開発に向けた課題を実証的に解明しました。成果を共有していただければ幸いです。

③15:00~15:30

インクルージョン教育の視点に立った
幼稚園児への生活語彙指導に関するプログラム開発

山本 晃(筑波大学附属聴覚特別支援学校)

私は、特別な教育的ニーズを有する幼児を含め、様々な幼児に「生活語彙」を獲得させるためのプログラムを研究してきました。プログラムを作成するにあたって、愛知県や沖縄県の幼稚園で実際に研究内容に関わる授業をおこなったり、現地の幼稚園の先生と協議を重ねてきました。本発表では、幼稚園教育の中に積極的に次の4つの事項の教育を提案する研究報告をおこないます。1つ目は「天気予報のキャスターが話す日本語からの生活語彙修得」、2つ目は「オノマトペなどの副詞の修得」、3つ目は「感情語の修得」、4つ目は「絵日記による生活語彙修得」です。

④15:30~16:00

地域貢献型防災教育の推進：
中学段階における、探求型学習の指導と射程

実践モデル校 高知市立潮江中学校
○宮田 龍(高知市立城西中学校)

平成23年(2011年)東日本震災を受けて、生徒の防災プロジェクトチームを発足させ、過去の南海地震で潮江校区がどのような歴史であったかを学習した。また、30年以内に高い確立(70%程度)で南海トラフ地震が発生することを学んだ。

その結果、生徒や地域の防災意識を高める必要を感じた。第一歩として中学生が防災に取り組む姿勢を大人へのメッセージとして発信したいと考え、「地域貢献型防災教育」の推進となった。学校の研究の中心である防災教育は、今年度で4年目の研究実践であり、ご参考にしていただければありがたいです

発表会場 1

①14:00~14:30

課題を見出し解決策を創造させる情報モラル教材の開発と授業実践
共通教科「情報」における「情報安全かるた」を生徒に作成させるまよめの学習指導

笹川 清喜 (渋谷教育学園幕張中学校・高等学校)

本研究は、共通教科「情報」の授業における情報モラル指導のための教材「情報安全かるた」を開発し、高校1年生を対象に、その教材を用いた効果的・効率的な授業をした実践報告です。(交通安全が大切である様に情報では情報安全が大切という事で名付けました。)本教材が楽しく学べる教材であると同時に、情報モラルに関する情報技術の知識を広げ定着のさせた本研究成果をお聞きいただき、教育実践の参考にしていただければと思います。

②14:30~15:00

高等学校における「要支援生徒」の進路保障に向けた「包摂」の検討
ー兵庫県の定時制高校を事例としてー

中本 佳紀 (広島県立呉三津田高等学校)

現在、定時制高校には相対的に高い割合で「要支援生徒」が在籍しています。しかし、そのような生徒に対する進路指導のあり方は確立されていません。そこで、本研究ではその確立に向けて、まず定時制高校における「要支援生徒」の進路保障の現状を「包摂」と「排除」の観点から整理しました。そして、特別支援学校と定時制高校での取り組みを踏まえて進路指導の取り組み案を提示しました。今後の教育実践の参考にしていただければ幸いです。

③15:00~15:30

高等学校における教師と生徒および保護者間での意思共有と
生徒指導の連携を円滑に行うための「学級新聞」活用法に関する研究

福田 浩三 (兵庫県立明石西高等学校)

本研究では、高等学校の一学級において、担任と生徒および保護者の三者間で円滑な関係づくりを行うため、週一回の『学級新聞』発行を行っています。学級内での出来事を伝えやすくするため、その都度、記事内容や表現方法の検証を行った結果、生徒および保護者から高い評価を得ることができました。本発表は、その取り組みについての報告です。

④15:30~16:00

高等学校教員用特別支援教育マニュアルの作成
—教育現場で今日から使えるリーフレット—

渡邊 高志 (神戸国際大学附属高等学校)

高等学校において特別支援教育の体制整備が課題となっています。本研究では特別支援マニュアル作成を検討しました。「管理職、コーディネーター、教員用」に Q&A 形式でマニュアルを作成し、通達、発達障害について、高等学校の教育現場に則した解説を入れ、教育現場で起こる、障害を持つ生徒の「気になる行動」と教員の対応についての事例を作成し、使いやすく編集しました。

発表会場 2

①14:00~14:30

研究型大学における高大接続の試み
—中国の CAP (Chinese Advanced Placement) プログラムに注目して—

郭 暁博 (京都大学大学院教育学研究科)

本研究では、中国の研究型大学が求める人材の能力と、高校教育で実際に育てられる能力の間の「ズレ」を探って、学力以外のイノベーション能力、グローバル化などの能力を高大接続により、円滑に導く新たな教育プログラムの在り方について検討しています。本発表では、中国の高大接続プログラムである CAP (Chinese Advanced Placement) の基本構造を紹介しながら、その課題をご報告します。高大接続に興味をお持ちの方にぜひ、ご意見を頂きたいと思えます。

②14:30~15:00

中高大連携事業と中学生および高校生の進路意識に関する調査および研究

坂本 好明 (兵庫県立大学附属高等学校)

兵庫県立大学附属高等学校では、併設型の附属中学校と共に、中学・高校・大学の連携プログラムを実施しています。本調査では、兵庫県立大学や大学の付置研究所の協力の元に行われている中大連携授業、高大連携授業をはじめとして、課題研究発表、プロジェクト学習において、中学生や高校生の興味や関心、進路意識にどのように影響を及ぼしているかを、附属中高生を対象にアンケートを実施して調査しました。今回はその調査結果を報告いたします。

③15:00~15:30

KYT による学習と効果的な指導を関連付けた安全教育プログラムの開発

○ 辻本 堅二 (大阪教育大学附属池田中学校)
平山 ちさと (大阪教育大学附属池田中学校)
藤井 宏明 (大阪教育大学附属池田中学校)
西田 有美香 (大阪教育大学附属池田中学校)

本研究では、従来行われてきた単一的な避難訓練等の安全指導から脱却し、子どもたちの安全意識や実践的行動力の向上につながる効果的な指導の実証的な検証を行ってきました。また、安全指導と安全学習の有機的な関連を視点に、今回は、効果的な指導に KYT(危険予知トレーニング)を中心にした安全学習を関連付けた安全教育プログラムの実践とその有効性について報告します。

④15:30~16:00

英文誌「Journal of Chemical Education」に報告された
実験・教材の高校化学教育現場への導入

池田 育浩 (神戸女学院中学部・高等学部)

本研究は、生徒の興味・関心をさらに喚起できるような化学の実験方法を開発するために、アメリカ化学会が発行する月刊誌「Journal of Chemical Education」で報告される実験教材を分析し、英語を使った教材化を試みています。本発表は、日本の高等学校の化学の授業にも取り入れられるユニークで有意義な実験教材と、化学を英語で学ぶことの可能性についての報告です。

発表会場 3

①14:00~14:30

自ら課題を見だし、解決するための科学的な資質や能力の育成
—作問指導を取り入れた場面解決型学習による科学的表現力の育成—

実践モデル校 宍粟市立山崎東中学校

○仁尾 雅浩(宍粟市立山崎東中学校)

近年、基礎学力に加え、学んだ知識を実生活で活用する力や日常と関連付けて考える力も学力として必要とされてきている。また、新学習指導要領においても、思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動を充実させること、とされている。本研究発表では、「作問指導を取り入れた場面解決型学習による科学的表現力の育成」をテーマに、中学生を対象とした授業実践から、作問指導を通しての生徒の変容を生徒のレポートや感想などを通じて、紹介させていただきます。

②14:30~15:00

「すべての子どもの学びと育ちを保障する」学びづくりとその継承

実践モデル校 岡山市立岡輝中学校

○中田 晴久(岡山市立岡輝中学校)

本校が、「すべての子どもの学びと育ちを保障する」という理念で「協同学習」という学びづくりに取り組み始めて8年。不登校の生徒数や授業離脱をする生徒数が減少傾向にあるなど、一定の成果を収めてきました。人事異動で教員が入れ替わっても、取り組み始めた当時の教員と同じ情熱と理念をもって子どもたちを支えていくために、私たちが日々取り組んでいることをお聞きいただけたらと思います。

③15:00~15:30

人口減少社会における地域を支える人材を育てる後期中等教育のあり方
—持続発展可能な地域をつくるために—

実践モデル校 岡山県立矢掛高等学校

○川上 公一(岡山県立矢掛高等学校)

人口減少社会に突入し地方消滅が叫ばれる今日、中山間部は先行モデルといえます。過疎化・少子化が進む中山間部では高校生は戦力です。地域に進出することで地域が活性化し、生徒も自らの進路実現に役立つようなプログラムを開発し、実践していくことが本研究のテーマです。学校の持続発展が地域の持続発展を担保します。そのためにも、地域に信頼される開かれた学校づくりを一層進めていかなければならないと考えています。

④15:30~16:00

日本の未来を切り拓く学校教育のあり方と提言
—社会的自立の基盤を育成する地域の課題解決型学習—

実践モデル校 兵庫県立兵庫高等学校
○窪田 勉(兵庫県立兵庫高等学校)

本研究では、地域の諸課題について自ら課題を設定し、すでにその課題に取り組んでいる地域の団体やNPOへフィールドワークに行き、ボランティア活動等を通して課題解決の提案をしようとするものです。さらに、お世話になった方々の協力を仰ぎながら、その提案を実践活動に結び付けていきます。本報告では、生徒たちの活動写真をご紹介しますながら実践活動を振り返り、生徒の問題解決力や主体的な学習態度の育成についてご紹介します。課題解決型学習に取り組む教育実践の参考にしていただければと思います。